

女川町 支援活動レポート

2012.10.6 ~ 2012.10.7

(東京都港区 みなと区民まつり)



頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！



平成24年10月25日(木)

東北被災地応援団 白金支部

工藤 史大

女川町 支援活動レポート

このたびの東日本大震災により亡くなられた方のご冥福を心からお祈り申し上げるとともに、被災された皆様に対し心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

1. はじめに

東日本大震災では、地場産業も大きな被害を受けています。水産業をメインとしていた女川町も例外ではありません。工場、生産設備、従業員の方々も被災され、港湾なども壊滅状態でした。女川町の多くの住民の方々が携わってきた、漁業の復興は、まさしく女川町の復興でもあります。震災から1年経った今年の4月、遠く離れた中東、カタールからの支援で、大型冷凍・冷蔵施設の建設が決まりました。秋刀魚の水揚げが期待される時期の完成を目指していたこの施設が、つい先日完成、加工場の再開や、船の寄航、水揚げが期待され、地場産業復興への足がかりとなると、たくさんの方々の希望を背負って竣工式が行われたようです。

そんな、水産業の復興が待ち遠しい女川町には、金華山沖から捕れる豊富な海の幸を使った、本当においしい食べ物がたくさんあります。食べていただければ、支援という枠を超えた、本当に美味しいものが女川町にあることを、知っていただける、前を向いて進もうとしている女川町を、東京の方々に是非、知っていただきたい。そんな思いから、2012 みなと区民まつりに、私ども東北被災地応援団 白金支部が、女川町観光協会の代理として、出店させていただきました。

また、この度の出店に当たっては、蒲鉾本舗高政の高橋様、女川町観光協会にご尽力いただきましたこと、この場を借りて、お礼申し上げます。

以下、今回の活動の報告になります。

2. 活動報告

(1) 今回の活動目的

女川町物産の販売サポート

女川物産をイベント来場者へ認知させることによる購買支援

魅力ある女川町の紹介

売上金を女川向学館(注1)へ寄付

(2) 出店におけるテーマ

夏の女川みなと祭りは、飾り付けられた船が海に何船も繰り出し、海上で獅子舞を披露します。とても活気あふれる、海の男衆の雄姿をみせるお祭りだそうです。そのみなと祭りは、震災後の開催は、昨年度に引き続き、今年も見送られました。そんな中、今年も秋刀魚の水揚げが始まった女川町。もともと全国でも有数の秋刀魚の水揚げ量を誇っていたこの町では、通年の水揚げ量には及ばないものの、この時期は、一年で、一番心躍る時期だそうです。

輝く秋刀魚を復興の光に、前を向こうとしている女川町の紹介がテーマです。

(3) 出店のポイント

女川の秋の味覚の紹介

他の女川の名産品の紹介

女川町に興味をもつていただく工夫

(4) 出店の構成

テント1 : 蒲鉾本舗高政 蒲鉾の販売 及び マルキチ阿部商店 秋刀魚昆布巻「リアスの詩」他、水産加工品の販売

テント2 : 東北被災地応援団 白金支部による、生秋刀魚塩焼き、秋刀魚すり身汁、及び 生ビールの販売、女川町の紹介コーナー

テント2での販売品:

● 女川直送生秋刀魚塩焼き

販売目標 : 1日100尾 2日間200尾

あらかじめ焼いた秋刀魚を、提供直前に、ホットプレートで温めて、販売します。アケボノ食品様よりご支援いただいた「大根おろし」、徳島県板野町観光協会様よりご支援いただいた「すだち」を添えて、提供します。

● 栄養満点秋刀魚すり身汁

販売目標 : 1日200杯 2日間400杯

女川町のワイケイ水産さんの「秋刀魚すり身」を使ったすり身汁です。東京では、つみれ汁と呼ばれています。群馬県の若宮さんより

ご支援いただいた「お豆腐」、参加メンバーが持ち寄った葱をいれ、かつお出汁に、お醤油の味付けで、提供します。

● 生ビール

お祭りにはつき物の、生ビール。 秋刀魚の塩焼きとともに、お勧めしたい一品です。

テント2のその他のスペース:

女川町の町の紹介として、女川町観光協会から送っていただいた、女川再開情報のパンフレット、女川の万石浦を一望できる宿華夕美、お魚市場マリパルのパンフレットを置きます。 また女川町の位置がわかる地図なども掲げます。

(5) 活動レポート

2012年7月

みなと区民まつり実行委員会を発足。 今後のスケジュール、人員の募集、その他、必要決定事項などを、話し合いました。 ブース出店は、今年4月の観桜会での経験があるとはいえ、みなと区民まつりという、毎年25万人を超える人出がみこまれるお祭りへの出店は初めての試み。 女川町のアピールはどうしたらいいのか、集客の方法は？ その為に必要なものは？ 手探りで船出です。

2012年8月

人員の募集を行い、参加人数による保険加入の手続き、備品の申込みなど、こまごまとした手続きを済ませる一方、ブースの全体イメージなどを固めて行きました。

2012年9月初旬

参加者も含めての、第1回目のミーティングをおこないました。 当日の大まかな流れ、個々の大体の役割分担を説明します。 また、女川色を全面に出すためのポップ作りの協力者も集めます。 みなと区民まつり実行委員会から封書がとどき、当日のブースの位置、搬入の為に駐車スペースなどの通知です。 東北被災地応援団 白金支部のWEBサイトにも、ブースの位置を掲載し、告知を始めます。



広いみなと区民まつりの会場。メイン会場から、道をはさんだふるさと物産エリアにどれくらいの人出があるのか心配されます。

2012年9月29日(土)

区民まつりまであと1週間。 当日参加のメンバーがほぼ集まり、改めて、当日の流れ、ブースの設営、役割を再確認。 各日、15人を越えるメンバーが参加してくれることになりました。 秋刀魚の焼き係、すり身汁の係、ビールの係、また、ブースにいらしていただくお客様の接客係などの担当割りです。 ミーティング後は、当日のブースの飾りの要である、ポップ作成チームのみ居残り、ポップの最終確認も行いました。

2012年10月5日(金) 午後

前日。 道具類を保管している倉庫より、必要な道具をそろえ、足りないものは買い足しに行きます。 買い物などを全て済ませ、いつもお世話になっている、尚礼会集会所に戻り、販売品、支援品の到着を待ちます。 白金高輪の尚礼会集会所、活動の準備の際には、いつも快く場所をご提供いただいております。 また、区民まつり会場での衛生管理の徹底のため、販売品の保冷用に、尚礼会集会所にある冷蔵庫もお借りします。 夕方5時。 高政さん、マルキチ阿部商店さんにて販売する品物が、十数箱届きます。 全数届いているか確認する作業が続きます。 他、ご支援いただいた、すだち、大根おろし、お豆腐も、続々と到着です。 すだちは、半分に切って、秋刀魚に添えてお出しするため、秋刀魚の販売量を、本日中に切る必要がありました。 仕事の都合が合ったメンバーが集まり、すだちを切る作業です。



半分に切り、乾燥しないよう、また切り口を合わせます。



板野町観光協会様からとどいたすだちです。

全ての準備が整い、みなと区民まつりの成功を祈って、帰路に着きました。

2012年10月6日(土)

7:00

雨もなく、さほど寒くない朝をむかえました。みなと区民まつり、当日。たくさんの人出があることを祈ります。

運搬係のメンバーは、尚礼会集会所に集合、冷蔵庫を含め昨日まとめた荷物を運びだします。

一方では、会場ブースの一番近いところに、搬入の車を留めることが出来るよう、駐車スペースの確保に奔走します。

8:15

女川町よりいらして下さった、蒲鉾本舗高政の高橋さん、マルキチ阿部商店の阿部さんも含め、参加メンバー全員がブース前に集合。

本日の注意事項などが伝えられました。女川町の魅力をたくさんの方々に伝えることができますよう、また、二日間事故のないよう、無事に終わることを祈って、全員で円陣を組み、マルキチ阿部商店の阿部さんの掛け声で、全員が成功を誓います。

8:30

ブースの設営は、ブースの配置図を元に、全員で配置を手際よく行います。秋刀魚焼き班は、すぐにロースターに火入れをし、秋刀魚の下焼きを始めます。女川町より届いた箱を開けると、とても立派な大きさと、身も太く、光り輝く生の秋刀魚が、冷たい氷水のなかにぎっしり！ロースターに、一尾ずつ並べていきます。

秋刀魚すり身汁の係は、水汲み、寸胴での湯沸かしから始めます。一方では、女川町より持ってきていただいた大漁旗をとりつけ、のぼりが掲げられました。海の町、女川町の息吹がブースに感じられます。

ポップの取り付けも順調に進みます。



阿部さんを中心に二日間の成功を祈って！



10/6(土) 参加メンバーで集合写真

10:45

開場15分前。ブース前面に設置したホットプレートで、下焼きした秋刀魚に再度火をとおり、熱々の状態に出せるよう準備します。

味付けが整った秋刀魚すり身汁も、出来上がりました。ビー・エヌ・アイさんよりご支援いただいた「割り箸」をセットして、準備完了。

高政さん、マルキチ阿部商店さんのブースも準備が整い、あとは開場を待つばかり。たくさんの方々が来てくださいます様に、女川町の魅力をたくさんの方々に伝えることが出来ますように、祈る気持ちで開場の時刻を待ちます。

11:00

開場のアナウンスがあり、販売開始。人通りがすぐに増えるわけではなく、不安が募ります。お隣のブースは、福井県からの出店。隣に人が集まると、不安が募ります。女川町のブースだということが、人目でわかるようにしたほうがいいのでは？もう少し、目を引く飾りを増やしたらどうだろうか？急遽、テント上部に、「がんばっぺ女川！」の布を飾ります。そうこうしているうちに、われわれのブースにも人が集まり始めました。最初の注文が入ったときは、全員がほっとしました。高政さん、マルキチ阿部商店さんのブースでは、試食を出して、通り行く人の注意を引きます。「女川町の日本一美味しい蒲鉾だよ！」「職人さんが一本一本手作りした、秋刀魚の昆布巻きだよ！」



女川町観光協会ブース。いらっしゃいませ！



ブースの後ろに貼られた大漁旗



女川町の紹介コーナー

午後

人が順調に増え始め、接客に追われます。「秋刀魚塩焼きのご注文はいりました！」「秋刀魚すり身汁2つお願いします。」最初は声がでなかったメンバーも徐々に声のでようになり、ブースに活気がでます。「脂が乗ってて、この秋刀魚本当に美味しいね。」「秋刀魚のすり身汁、初めてだけど、いい出汁がでて美味しいよ。」そんな言葉に、スタッフも女川町に美味しい食べ物があることをお伝えする喜びを実感。また、女川町に対する質問もいただきました。「震災で女川は大変でしたね。その後は現地の様子はどうなんですか？」対応のメンバーが、女川町ではまだたくさんの方々が、仮設住宅に暮らしていること、牛歩ながらも進む復興ですが、これからもたくさんの助けが必要であることを、お伝えします。真剣に聞いてくださる目、私たちがたくさんのことを伝えようと真剣です。

15:30

順調に売れてきて残り少なくなってきた秋刀魚塩焼き、とうとう最後の一本が売れ完売、すり身汁、ビールは、ぎりぎりまで販売です。一方で、終了の時間も考えながら、片付けられる部分、洗物やごみなどの処理に手が空いたスタッフがとりかかります。

17:00

一日目、終了。秋刀魚の塩焼きは完売、秋刀魚すり身汁も、160杯でした。高政さん、マルキチ阿部商店さんも売り切れの品物があり、人手がさらに多くなるという翌日、日曜日に期待しながら撤収です。

18:00

撤収完了。一日のみのサポートだったスタッフに、お疲れ様の言葉をかけ、また翌日の成功への励ましの言葉ももらい解散です。

2012年10月7日(日)

朝

夜間から降り始めた雨、朝になってもまだやみません。早めにあがってくれることを祈りつつ、前日同様、朝の準備が始まります。この日の販売分の食材は、前日の土曜日に女川町より到着しました。後方支援の方に保管していただいていたので、お礼をお伝えしながら、食材を受け取ります。

8:15

スタッフが集まり、荷物も会場に到着。なかなか上がらない雨にスタッフの顔も曇りがち。それでも、前日から引き続き参加のスタッフが中心となり、設営の準備が進みます。この日の開場は、前日より1時間早い、10時。前日同様、秋刀魚の下焼き、すり身汁の湯沸しから始めます。

9:45

開場15分前。前日より短い準備時間に関わらず、スタッフの協力により、すべて準備が完了。一度全員が手を止め、集まります。

注意事項を伝え、雨がやむことを祈りつつ、全員でこの二日目を無事に終えることを誓いました。

10:00

開場。時折小雨になるものやまない雨。それでも、傘を差しながら人出が始めます。気温も低いこの日は、すり身汁に惹かれる方が多いよう。早速注文が入ります。秋刀魚塩焼きの注文も入り、傘を差しながら秋刀魚を食べる方もいらっしゃいました。まずまずの出だしです。

12:00頃

人の流れにばらつきはあるものの、すり身、秋刀魚が順調に売れ、高政さん、マルキチ阿部商店さんにも、たくさんの方々が集まります。



みなと区民まつりのパレード



すり身汁は絶やさないように作ります。



身の厚い、立派な秋刀魚です。

午後

みなと区民まつりのメインイベントのパレードが終わった頃、雨雲もなくなり、すっきりした秋晴れになりました。すこし肌寒い気温ですが、ようやく上がった雨に感謝。応援団のブース、高政さん、マルキチ阿部商店さんのブースからも、人を呼び込む声ははずみず。人出も増え、ブースの前に人だかりができる場面もありました。「秋刀魚あと、残り20本！早いものがちだよ！」「出汁のきいた、秋刀魚すり身汁、体が温まりますよ！」ブースにおいて置いた、女川町の宿泊施設、華夕美のパンフレットを手に、「ここに泊まったことあるんですよ。」という方。震災後の華夕美さんの状況を説明します。また、すり身汁を飲みながら「この美味しいすり身、ここで買えるんですか？」と、聞いてくださる方もいらっしゃいました。女川の再開情報のパンフレットをお渡ししながら、女川の美味しい海の幸を紹介します。

14:30

昨日より早く秋刀魚塩焼きが無事に完売！すり身汁の完売もめざして、試食用にスープを紙コップに少し入れたものをお勧めします。試食して下さった方が、想像以上に美味しい！と、購入していただいたときは、我々もうれしくなり、いつもより具沢山で提供です。高政さん、マルキチ阿部商店さんも、午後の人出で順調に売れ、あと少しの商材を残すのみとなりました。

15:30

16時の終了を待たずして、高政さん、マルキチ阿部商店さん、東北被災地応援団 白金支部、用意したものが全て完売！参加者全員に安堵の笑顔と、どっと疲れが押し寄せます。でも、もう一踏ん張り、片付けの開始です。

17:00

トラックに撤収した荷物を積み、二日間お世話になったブースもテントを残して、全て綺麗になりました。全員が集まり、女川町より駆けつけてくださいました、高橋さん、阿部さんに、改めてお礼を申し上げ、一本締めで解散です。参加したスタッフ同士もお互いにねぎらいながら、二日間にわたったみなと区民まつりの活動、無事に終了しました。



7日の午後、お天気が回復しました。



東北被災地応援団が、6月に開催した「がんばっぺ！東北」のチャリティーコンサートでもご挨拶をいただいた、港区武井区長が、我々のブースを訪ねてくださいました。



女川町からいらしてくださった、高橋さん、阿部さん。完売に笑顔がこぼれます。



終わってみると、あっという間の二日間。撤収です。

以上を持ちまして、この度の活動の報告とさせていただきます。

(注1) 女川向学館

女川向学館とは、NPO法人カタリバが、女川町で被災し、仮設住宅での暮らしを余儀なくされた子供達に、放課後の場所を、また、勉強を通して、将来への希望を持ってほしい、との思いから設立された学習塾です。この度のみなと区民まつりの売上金は、経費を除き、女川向学館へ全額寄付させていただきます。

3. 活動を終えて

震災から1年半、私どもが活動を通して感じてきたのは、被災地と、東京との温度差です。もちろん、復興に向けて前を向いて進んでいる方々もたくさんいらっしゃいます。いつまで、被災地と呼ばれるんだろうか、そんな声も聞かれます。でも、まだ前を向いて進めない方々もたくさんいらっしゃるのが現状です。いろんな側面をかかえ始めた女川町。それも、これも含めて、震災後に抱える事実として、東北、東京、住むところに関わらず、関心を持ち続けることが、大切だと思いました。東京の方々に、今の女川町に関心を持っていただきたい、知っていただきたい、そんな思いでの活動でした。会場で、ご質問いただいた方々には、真摯にお答えさせていただきました。どこまでお伝えできたか、お伝えしきれなかったところもあるのではないだろうか、と、自問自答もいたしますが、今後もこういった東京での活動で、女川町を紹介する機会を増やしていけたらと思います。

4. 補足事項

(1) 参加者 (敬称略/順不同)

川端 陽子	後藤 奈津子	蜜口 真人	三上 加寿子
安部 由美	浅野 礼博	伊井 涼子	伊藤 秀美
石川 稚子	池内 詩音	小澤 徹	川尻 由美子
小林 歩	鈴木 恭子	末石 義史	高橋 康子
橋本 芙美	平林 真百合	藤本 和枝	府川 めぐみ
仲村 光史	工藤 史大		

(2) 後方支援者 (敬称略/順不同)

尚礼会町会	橋本 翔二	小澤 雅志	加藤 豊
斉藤 秀朋	若本 智子	河野 淳子	

(3) 支援物資提供 (敬称略/順不同)

清水地区仮設住宅マザーズ	徳島県板野町観光協会	株式会社 小倉
株式会社 ビー・エヌ・アイ	御嶽神社 有限会社 若宮	アケボノ食品 株式会社
竹内 麻未	岡本 二美	

(4) 支援金提供 (敬称略/順不同)

城戸 隆興	守安 正治
-------	-------

(5) 協力団体

女川町観光協会 様

(6) 主催元

みなと区民まつり実行委員会

皆様からの、あたたかいご支援・ご協力のうで、成り立っております。
本当にありがとうございました。
私たちは、被災地への支援活動を、継続していきます。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。



平成24年10月25日
東北被災地応援団 白金支部
工藤 史大

★東北被災地応援団 白金支部 WEBサイト★

<http://www.onagawa.e-ouen.jp>

※このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2012 Tohokuhisaiichi-Ouendan All Rights Reserved.